

OUR CREW

兵庫医科大学のUI(ユニバーシティアイデンティティ)で策定したスローガン

「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」を実践している兵医ファミリーを紹介するコーナー。今回はささやま医療センターで地域の医療を支える金田 好弘さんのエピソードを紹介します。

兵庫医科大学
ささやま医療センター
リハビリテーション科 医長

かなた よしひろ
金田 好弘

兵庫県姫路市出身。兵庫医科大学卒業。
兵庫県養成医師制度にて、兵庫県北部の
但馬地域に派遣され、総合診療医として勤
務。2015年、兵庫医科大学病院のリハビ
リテーション科に入局。2017年より、ささ
やま医療センターリハビリテーション科に配
属。現在は、医長を務める。



EMPOWER THE PEOPLE BY

笑顔を決やさず!

患者さんやご家族と同じ目線に立ち、 元気な生活を送れるようにサポートする

その人らしい生き方を共に探り 生活レベルの困りごとを解決するリハビリ科

兵庫医科大学を卒業後は、総合診療を専門に担当していました。当時、入院されている方が在宅に戻られていく中、院内での医療行為のみだと、限界を感じる部分があったんです。その解決策を考えているうちに、リハビリの必要性に繋がり、リハビリテーション科医になりました。実は、兄が理学療法士なので、話を聞く機会がたくさんあったことも影響しています。

一般的に「リハビリ」といえば、「運動療法」をイメージされることが多いかと思いますが、「リハビリテーション」は、一個人が社会的に生活することをいかに取り戻せるかということが元になっている治療方法です。患者さんのお困りごとが生活レベルというところがリハビリ科の特徴です。「その人がその人らしく元気に生きていくためにはどうすればいいか」ということが治療のベースになっているため、リハビリで一番大事なことは「本人がどうなりたいか」ということです。

頑張りを引き出す雰囲気づくりを大切に! 明るい笑顔で患者さんの目標達成をサポート

基本的にリハビリはしんどいです。ただでさえ怪我や病気で辛い思いをしているのに、さらにしんどいリハビリをしなければいけません。それを強要しても、ご本人の努力なしではうまくいきませんよね。逆に言えば、ご本人の頑張りさえあれば、どんどん良くなっていきます。いかにそれを引き出すかが私たちの重要な任務です。少しでも気持ちよくリハビリに取り組んでいただけるように、患者さんのお話をしっかり聞いて、相談しながら、納得できる形で進めます。もちろん、その際に笑顔は欠かせませんし、お会いしたときには積極的



にお声掛けをするようにしています。

リハビリ科の外来を受診される方の中には、定期的にお話をしに来てくださるというような関係性の方もいらっしゃいます。他愛もない話の中から、その人が困っていることを拾い上げることが私の役目です。病院では医学的な治療を受けていただくことはもちろんですが、話を聞くだけでプラスの影響が出ることもあります。例えば、足の骨折で家から出られなかった患者さんのところに訪問しているうちに、外来のリハビリに話をしに来てもらえるようになりました。ご家族の方からも「家から出られるようになってうれしい」と喜んでいただけて、私もうれしかったですね。

その人の人生に長く関わるからこそ 最も重要な信頼関係を笑顔から構築

一方で、たとえリハビリで回復したとしても、以前の生活に100パーセント戻るといことはほとんどありません。何かを我慢してもらうようお願いをしないといけないので、やっぱり患者さんとの信頼関係が最も重要ですよ。患者さんに安心して、任せていただけるような医師でありたいです。特に地方は派遣される医師の任期が短いことがよくあるので、長期的に患者さんを診てくれる地域のスタッフとの連携が大切です。リハビリ科の考え方が他の専門の先生方にも浸透すれば、より良いですね。

高齢化という面では、篠山では都市部で今後起こるとされている問題を先取りしている状況です。たくさんの事例があるので、それを活かして、今後は研究にも力を入れていきたいと思っています。

